

# WCRP

World Conference of Religions for Peace Japan

**2**  
2024  
February  
No. 532



新春学習会でのパネルディスカッション

こころの扉—「心が時代をつくる」本多端子 .....	2
第46回理事会・第27回評議員会 .....	3
新春学習会 .....	4～5
茶話交流会を開催 .....	6
「日韓青年リーダー交流会」を開催 .....	7
「感じる地球ワークショップ」ブース出展 .....	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動 .....	8

## \* 心の扉 \*

## 「心が時代をつくる」

WCRP日本委員会  
婦人部会委員長  
全日本仏教婦人連盟理事

本多 端子



- 仏教では、この世を五濁悪世（ごじよくあくせ）と言  
つて、五つの濁りをあげ悪世と表されます。
- (1) 劫濁（こうじよく） 飢饉や疫病、戦争などの社会  
悪が増大する
- (2) 見濁（けんじよく） 思想の乱れ。邪悪な思想や見  
解がはびこる
- (3) 煩惱濁（ぼんのうじよく） 貪・瞋・痴などの煩惱  
が盛んになる
- (4) 衆生濁（しゅじょうじよく） 衆生の資質が低下し、  
十悪をほしいままにする

- (5) 命濁（みょうじよく） 衆生の寿命が次第に短くな  
る

数年に渡るコロナパンデミックもようやく収まったと  
はいえ、ひとたび世界に目を向けるとあちらこちらで戦  
争が続いております。正に五濁悪世、まことに寂しいか  
ぎりです。そんな中、最近では安全・安心なまちづくり  
や社会など、安全や安心という言葉が標語のように使わ  
れています。それは正に理想のように思われます。しか  
し安全とは、ある程度の基準を設けて損害がないと客観  
的に判断されることです。それに対して安心とは個人の

主観的な判断に大きく依存するものであります。つまり  
安全には基準があるが、安心には基準がないのです。例  
えば、外出の際に鍵を一つかけて安心する人もいれば、  
二つも三つもかけて安心する、それでもまだ不安で警備  
会社に頼んでやっと安心するなど、切りがありません。  
しかしこの安心こそが人生において最も大事な心の働き  
と言えるでしょう。不安、不幸、不満、不足、など基準  
のない心の働きの否定には、不という字がついています。  
なぜなら私たちは、自分自身で勝手に基準を設け、それ  
以上だと安らぐとか、幸せ、満ちている、足りていると  
決定するからでしょう。しかし人間の欲望はややもすれ  
ば限りなく、それが叶わなかったときに苦しみが生まれ  
ます。お釈迦さまは「少欲知足」欲を少なく足ること知  
るとお諭しくださり、「中道」偏らない心を持つことをす  
すめられました。

情報過多なこの時代に生きる私たちは、宗教に支えら  
れて柔和忍辱（にゅうわにんにく）の心を持つことが肝  
要に思われます。常に心が時代をつくってきたといつて  
も過言ではないようにも思われます。

世界中には色々な宗教がありますが、多くの人に信仰  
されている宗教には、三つの共通点があります。それは、

- (1) 信じること  
(2) 感謝すること  
(3) 奉仕すること  
であります。

WCRPは諸宗教の叡智を集結し、対話に基づき、平  
和構築のための活動をおこなっております。私共(公社)  
全日本仏教婦人連盟の信条に「私たちはつどいの力を信  
じて働きましょう」とあります。これからも各団体と協  
力し、つどいの力を信じて、社会の福祉と文化の向上に  
努めて参りたく存じます。

## 第46回理事会・第27回評議員会

第46回理事会、第27回評議員会が1月25日、立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）で



理事会の様子



評議員会の様子

オンラインを併用し開催された。理事会には理事22人が出席。日本委員会人事「2024年度事業方針・タスクフォース」2024年度予算「資金調達及び設備投資の見込み」電子取引データ訂正削除防止に関する事務処理規定「令和6年能登半島地震への対応」第2回東京平和円卓会議「AI倫理会合」第10回ACRP大会」について審議し、可決された。

引き続き行われた第27回評議員会には評議員9人が出席。審議事項はすべて可決された。2024年度4月から特別事

業部門（タスクフォース）が再編されるにあたり、ストップ！核依存、気候危機、和解の教育、人身売買禁止、災害対応の五つのタスクフォースが始動することとなった。また、2026年に開催が予定される第10回ACRP大会を日本で開催することの意思表明を行うことが決定した。

●日本委員会人事で選任された役員は次の通り。（敬称略）

監事（評議員会で選任）  
就任…利根康教（寒川神社宮司）  
理事（評議員会で選任）  
退任…杉谷義恭（天台宗国際平和宗教協力協会専門委員）

退任…中村憲一郎（佼成学園理事長）  
就任…熊野隆規（立正佼成会理事長）  
就任…大西英玄（北法相宗音羽山清水寺成就院住職）※青年部会幹事長として

就任…國富敬二（立正佼成会前理事長、徳島教会長）※特別会員として  
特別会員（理事会で推薦、評議員会で承認）  
退任…佐藤益弘（立正佼成会）  
就任…國富敬二（立正佼成会徳島教会長）  
活動委員（事務局で推薦、理事会で承認）  
退任…柿澤伸光（立正佼成会高崎教会長）  
退任…川本貢市（立正佼成会東京教区長）  
就任…榎本光良（立正佼成会時務部長）  
就任…三善健雄（立正佼成会総務部渉外

グループ主任

総合企画委員会（理事会で選任）

退任…國富敬二（立正佼成会徳島教会長）  
就任…熊野隆規（立正佼成会理事長）  
タスクフォース（理事会で選任）

（1）気候危機タスクフォース  
退任…佐藤益弘（立正佼成会）  
就任…國富敬二（立正佼成会徳島教会長）  
（2）和解の教育タスクフォース  
退任…川本貢市（立正佼成会東京教区長）  
就任…榎本光良（立正佼成会時務部長）

（3）人身取引防止タスクフォース  
退任…和田恵久巳（立正佼成会総務部長）  
（4）災害対応タスクフォース  
退任…佐原透修（立正佼成会総務部渉外

グループ次長

就任…三善健雄（立正佼成会総務部渉外グループ主任）  
青年部会（青年幹事会で推薦、理事会で選

任）

幹事長  
退任…杉谷義恭（天台宗国際平和宗教協力協会専門委員）※幹事継続

就任…大西英玄（北法相宗音羽山清水寺成就院住職）

副幹事長

就任…加藤大志（服部天神宮禰宜）  
幹事

退任…上田信（大本総務部人事課）  
就任…穴井賢太郎（大本青年部長）

## 新春学習会

『人道危機において、国際機関が宗教者に期待すること』をテーマに、新春学習会が1月25日、立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）を会場にオンラインを併用して開催された。約150人の宗教者らが参加・視聴した。

ウクライナ、イスラエル・パレスチナ、ミャンマーなど世界各地で多発している武力衝突に対し、宗教者・宗教団体も紛争和解や被害者支援などを展開している。こうした宗教者の取り組みは、どのような意義と課題があるのか、また果たすべき役割とは何かを国際機関から投げかけてもらい、応答することが目的。

はじめに、戸松義晴理事長（浄土宗総合研究所副所長・浄土宗心光院住職）が開会あいさつを述べた。

続いて、昨年2月に起きたトルコ・シリア地震の現地調査隊（昨年10月）に参加した災害対応タスクフォースの館野庸子メンバー（解脱会青年本部事務局次長）が、現地調査報告を行った。

次に、赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表の榛澤祥子氏と、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日代表の伊藤礼樹氏が基調講演に立った。

このあと、パネルディスカッションが行われ、山本俊正理事（元関西学院大学教授）

のコーディネーターのもと、黒住宗道理事（黒住教教主）、女性部会の本多端子委員（全日本仏教婦人連盟理事）、大西英玄理事（北法相宗音羽山清水寺成就院住職）と、榛澤氏、伊藤氏がパネリストを務めた。

質疑応答のあと、武藤謙一理事（日本聖公会首座主教）が閉会あいさつを述べた。司会は、災害対応タスクフォースの佐原透修メンバー（立正佼成会総務部渉外グループ次長）が務めた。

### ▼基調講演（要旨）

『赤十字国際委員会（ICRC）の使命』  
宗教者への提言

榛澤祥子氏・ICRC駐日代表

私たちはイスラエル・ガザ地区で戦禍の中で、活動を継続しています。現在、100人ほどのスタッフがガザに常駐しておりますが、インフラも機能していない、食料も限られている、医療施設は崩壊寸前といった状況に直面しています。命を落としたスタッフもいます。病院には多数の遺体が運び込まれていますが、ほとんどは身元が確認できません。慢性疾患、肺炎、感染症などの患者は、負傷者の手術が優先されるため治療できません。清潔な水や衛生施設がないため、胃腸関連の病気や皮膚病が避難民のコミュニケーションで急速に広がっています。戦争・紛争で最も影響を受けるのは、子ども、妊婦、高齢者、障がい者など、い



榛澤祥子氏

つも弱い立場にある人たちです。

ICRCの使命は、

「公平で中立、かつ独立した組織で、武力紛争およびその他暴力を伴う事態によって犠牲

を強いられている人びとの生命と尊厳を保護し、必要な援助を提供すること」です。

公平・中立・独立という人道原則、これは宗教にも大きく関連すると思います。公平は、国籍や人種、宗教などの違いによるいかなる差別もなく、助けを必要とする人のニーズに応じることです。

中立は、紛争から目をそらして何もなしといった消極的なものではありません。ICRCにとっての中立は、犠牲者へのアクセスを確保するツール、手段です。中立であるがゆえに紛争当事者から信頼され、その信頼をベースに支援を必要としている人びとにアクセスを得ることができるので

す。独立は、助けを求めている人たちに援助が届けられるよう、政治、経済、軍事、宗

教などの権力や影響力から独立している必要があるということです。

私たちは、宗教と国際人道法には深いつながりがあると考えています。民間人や、負傷などで戦闘から離れた兵士の生命と尊厳が保護されるべきという考え方は、普遍的・道徳的良心と捉えることができます。宗教者のみなさまに国際人道法や人道原則を普及させていくためのお力を借りることは、ICRCにとってのカギとなります。

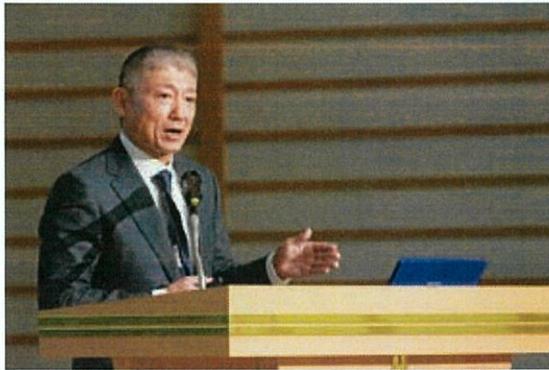
また、日本の宗教者に期待することの一つに挙げられるのが核兵器廃絶についてです。もし、核兵器が使われたら、私たちが効果的な人道支援を行うことは、ほぼ不可能です。核兵器の使用によって生じる膨大な人道ニーズに対応できる国や国際組織は存在しません。対応できないものは、未然に防ぐしかありません。そのためにも核兵器は廃絶しなくてはならないのです。

ICRCは、紛争の現場で人びとに寄り添って活動する組織です。だからこそ紛争の現実を知っています。紛争は悲惨な結果をもたらします。私たちは宗教者と一緒に日本で何をしなければならぬのか。それを模索していくことを最後に提案させていただきます。と思います。

『難民保護における宗教の役割』

伊藤礼樹氏・UNHCR駐日代表

現在、国から出た難民、まだ国内にいる



伊藤礼樹氏

避難民も併せると、故郷を追われた人びとは約1億1千万人です。その数を折れ線グラフで表すと、2011年のシリア危機から一気に右肩上がりが増えてきています。昨年のデータでは、シリアが世界でいちばん難民をつくり出す、送り出している国で約650万人。次いでウクライナからの難民が約570万人、アフガニスタンも約570万人となっています。

国際難民法というものの中に、宗教という言葉が出てきます。それは、人種などのほかに、宗教によって迫害を受けて国を出た人を難民と定義するという文章です。そして、「難民の地位に関する条約」では、難民の権利として信仰・宗教の自由というのは絶対に保護しなければいけないと明文化されています。

私たちが難民の保護でも頼っているのが宗教です。ほとんどの宗教の教義には倫理観、道徳観、人に対する優

しさが示されています。そうした価値観が政治的解決とは違うアングルで人道問題に対する解決策を提供してくれるのではないかと期待しているのです。

難民保護における宗教の役割として、私の経験に基づき六つ提言させていただきました。①難民受け入れ・歓迎の啓発②現場での直接的な難民支援③差別、ヘイトスピーチなどへの警鐘④難民と受け入れコミュニティとの融和⑤和解・平和構築⑥資金援助——です。

命から逃れてきた人を人種、宗教、生活様式が違うからと拒否する機運が強くなってきたいます。もう少し寛容な環境を作っていただきたいと感じます。一方で、最初に援助してくれるのが現場に根づいている宗教者・宗教組織でもあります。そうした現場での支援を、資金援助も含めて応援していただきたいと思っています。

いま、ヨーロッパでは非常に強い難民排斥が起こっています。ヘイトスピーチなどの差別には、宗教のモラル・オーソリティーで対応することが大事だと思います。さらに、これから日本でも大切になってくるのが、難民とホストコミュニティの融和です。それには、和解、平和構築が重要になってきます。

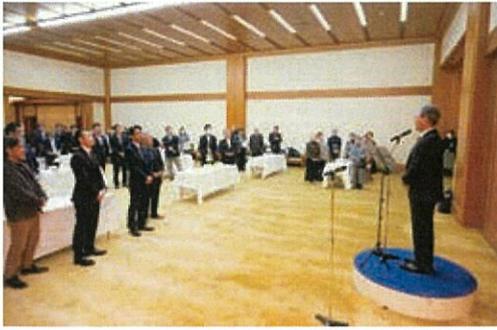
以上ですが、宗教者のみなさまからのUNHCRへのご提案もお願いいたします。

茶話交流会を開催

新春学習会に先立ち、茶話交流会が開催された。多くの参加者が和やかに交流する中、セレモニーが持たれた。

はじめに、WCRP日本委員会を代表して、三宅光雄評議員（金光教泉尾教会会長）があいさつに立った。三宅師は、参集した参加者を前に、日本委員会を支援している賛助会員、会場提供教団の立正佼成会、そして日本委員会事務局への感謝の言葉を述べた。

次に、内戦の続くアフガニスタンから日本に逃れ、生活の再建を図りながらフルート奏者として活躍するジャムシットさんの



あいさつする三宅光雄評議員と参加者

演奏が披露された。演奏曲は、愛する人を失った男性の悲しみを歌った「サルザミーン・マイン」戦場で壊れた心を神に告白する兵士



ジャムシットさん

の歌「ヤーマウラ」、そして日本の曲「やさしさに包まれたなら」の3曲。演奏後、

ジャムシットさんは自身の来日の経緯に触れた。タリバンが政権を握ったためアフガニスタンからイランに逃れたものの、ビザの延長が許されず、どうしたら生き延びることができると不安で押しつぶされそうになっていたところ、学校の先生や友人、WCRP日本委員会の縁を得て、ようやく来日することができたと感謝した。アフガニスタンでは現在も、IS（イスラム国）により、ジャムシットさんからハザラ人に対する迫害が行われているという。そして、いのちの危険にさらされている人びとのことを忘れずに、これからも支援をお願いしたいと訴えた。

最後に、二人の参加者から感想が述べられた。

田中常隆氏（WCRP国際トラステイ日本グループ代表）は、「国家、民族、宗教、イデオロギーの違いなど、さまざまな



田中常隆氏

要因により世界では紛争や戦争が絶えない。2月に開催される第2回東京平和円卓会議における諸宗教指導者の話し合いにより、国家を超えて紛争解決に至る大いなる智慧と行動の第一歩が示されることを願う」と述べた。

また、鶴田啓二氏（山梨県宗教者懇話会事務局長）は、「山梨県宗教者懇話会は、1



鶴田啓二氏

970年に開催された第1回WCRP世界大会に参加した宗教者が主体的に翌年

の71年3月に結成した」と語り、発足以来、長らく会長を務めた清雲俊元師の「この宗教懇話会はWCRPの根っこです。私たちがしっかりと取り組み連携することでWCRPの活動を支えることができるのです」という言葉を紹介し、WCRPに対する期待を述べた。

### 「日韓青年リーダー交流会」を開催

WCRP日本委員会青年部会は昨年12月20日から22日まで、韓国宗教人平和会議(KCRP)青年委員会と共に韓国・ソウル市内のホテルアトリウムを主会場として「日韓青年リーダー交流会」を開催した。

これは、両国の諸宗教青年の交流や文化への理解促進を目的に、1990年より2年に1回「交流会」を実施しているもの。新型コロナウイルス感染症拡大により交流が延期されていたが、昨年5月に新型コロナウイルスが5類感染症へ移行されたことを踏ま



日韓青年リーダー会合の様子

え、日韓の諸宗教青年リーダー同士の交流を再開し、次回以降の青年交流のあり方などを議論、考案することを目的とした。20日は、



梨泰院での慰霊

ジェソン青年委員長、WCRP日本委員会青年部会の大西英玄副幹事長(訪問団長)がそれぞれあいさつを述べた。

続いて、参加者による会合を実施し、次回以降の日韓青年交流会の開催・推進方法や、諸宗教青年たちの共同プログラムのあり方・枠組みについて議論した。

21日は梨泰院を訪問し、2022年10月29日に発生した雑踏事故の犠牲者に対し慰霊の祈りを捧げた。また、同事故犠牲者への慰霊・追悼メッセージを記したポストイットを日本青年部会幹事らが用意し、KCRP青年委員へ預けられ、その後ソウル市役所にある追悼メッセージボードへ掲示された。

その後、青年リーダーらは成均館を訪問し、チェ・ゾンスKCRP代表会長(成均

ホテルアトリウムで開会式を行った。まずKCRP事務総長のキム・テソン師から歓迎のあいさつがあり、次にKCRP青年委員会のイ・

館館長)と談話した。

閉会式では感想共有を行うと共に、今後の日韓青年が共同プログラムを通して一緒に行動していくこと、本年3月ごろに両委員会間でオンラインミーティングを行うことを確認し、交流会は終了した。

日本の青年リーダーたちは22日、景福宮や歴史民俗博物館を訪問し、韓国の食・季節ごとの暮らしぶりや、民族資料などの文化について理解を深める時間を過ごした。



成均館での集合写真

## 「感じる地球ワークショップ」

### ブース出展

「感じる地球ワークショップ」が昨年11月5日、立正佼成会有志職員主催の「子ども秋マツリ（東京・立正佼成会専門エリア）」で、同11日には立正佼成会青年ネットワークグループ主催の「いろいろとりどりサンガデザイン（東京・立正佼成会第二団参会館）」にてブース出展した。

「子ども秋マツリ」では、環境教育の一環として、デジタル地球儀（通称・感じる地球）を活用したワークショップを開いた。



大盛況のWCRPブース

世界の主要都市の様子を映し出すライブ映像、クジラや渡り鳥などの生き物が海中や大陸を横断していく様子、海面温度

の上昇や津波の発生過程などがデジタル地球儀に映し出され、参加者は自分の操作によって変化する地球儀に興味津々だった。

「いろいろとりどりサンガデザイン」では、WCRPの活動紹介、とくに「WCRPのちの森づくり」と「アフリカ支援」の活動に関する展示を併せて実施した。いのちの森づくり活動紹介では、植樹会、タケノコ掘りなどのイベントや、森の整備前と現在の様子の写真揭示、孟宗竹・カラスウリ・チャノキ（狭山茶）など、いのちの森に生息している植物の標本展示を行った。

### 今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し新しい熟語を作ります。

\*\*\*\*\*  
**奮音（フルーツ）**  
 \*\*\*\*\*

1月25日に行われた茶話交流会では、アフガニスタンから日本に逃れてきたジャムシッドさんがフルーツを演奏してくれました。彼

が日本での生活に日々奮闘する中、奏でてくれた美しい音色に感動しました。

### WCRPの活動

#### 《2月》

- 5日 気候危機タスクフォース「WCRPのちの森づくりプロジェクト」森の整備作業（埼玉・所沢） \*27日も実施
- 8日 青年部会執行役員会（オンライン開催）
- 9日 災害対応タスクフォース第5回会合（オンライン開催）
- 20日 青年部会アジア・ユースキャンプ（韓国・ソウル） \*23日まで
- 26日 平和研究所第9回所員会議・第8回研究会（東京・専門メディアセンター／オンライン併用）
- 28日 ストップ！核依存タスクフォース第4回会合（オンライン開催）
- 29日 和解の教育タスクフォース第4回会合（オンライン開催）

掲載内容の無断転載を禁ず。